

〈資料〉

日本におけるギリシア学・ローマ学の流入・ 移植・需要と展開の文献史（八）

昭19（1944）

- A. テツガアト著／山崎昇譯・岩村忍校閲『ロオマと支那』
書評「ギゾー／中田精一譯「ヨーロッパ文明史」（上）」史學雜誌652
シャルル・セーニョボス著／高木佑一郎譯『世界文明史・第1「古代篇」』
足利惇「イラーンの旅」學藝1-3～7
鈴木成高「ヨーロッパ文明」新文化論講座2
長與善郎「アメリカというものの一考察」理想158
安津素彦「西歐精神史への反省」國學院雜誌50-7
ヘンリー・ユール著アンリ・コルデイヒ補／東亞史研究會編譯『東西交渉史』
カール・ヒルティ著／佐久間政一譯『讀書・演説・教養』
- B. ①山本光雄譯『プラトン書簡集』
青木巖譯『プラトンの手紙』
プラトン著／長澤信壽譯『パルメニデース』（岩波文庫）
アリストテレス著／多賀瑞心・山内得立譯『トピカ（辯證論）』（昭18刊？）
五十嵐達六郎譯『プロクロス・形而上學』
- ②ニーチェ著／阿部六郎譯『悲劇時代の希臘哲學』（昭9「物質と悲劇・希臘悲
劇時代の哲學」改訂版）
- A. ボイムレル著／龜尾英四郎譯『ニーチェその哲學觀と政治觀』
入澤宗壽『教育學概論』
福島政雄『西洋文教史要』
三谷隆正『幸福論』
田中晃『プラトンとアリストテレス』
ベルグソン著／五十嵐達六郎譯『アリストテレスの場所論』
三宅剛一『學の形成と自然的世界』
佐々木理『ギリシヤ古典研究』
佐々木理『ギリシヤ神話と古典文學』
松村武雄『宗教及び神話と環境』
M.O. Howey著／古川洋三譯『魔の馬・神話の馬』
山内得立『ギリシヤの哲學』（上、新哲叢書）
ティーリッヒ著／菅圓吉譯『カイロスとエロス——歴史解釋の問題』

(昭18刊?)

クーランジュ著／田辺貞之助譯『古代都市——ギリシヤ・ローマに於ける宗教・法律・制度の研究』(上、昭23(下)刊、
仏蘭西古典文庫)

M.ブラウン著／小林珍雄譯『聖トマス・アクイナスの文化哲學』

モンテーニュ著／關根秀雄譯『モンテーニュ・隨想錄(1-6)』(→昭24)

白井二尚・木村素衛・高坂正顯・高山岩男・西谷啓治・柳田謙十郎編

『哲學年鑑・第2輯』(學界動向)

③P.ヴァレリー／吉田健一譯「レオナルドと哲學者達」(ヴァレリー全集5中)

田中美知太郎「プラトンの年代について」東京文理科大學大塚哲學會編「哲學
論叢」昭和18年度秋季版中

田中美知太郎「技術」思想266, 267

藤井義夫「アリストテレスの自由意志への序説」一橋論叢13-6

長澤信壽「ティトウス・ルクレティウス・カールス」日伊文化研究16

田中美知太郎「マルクス・アウレリウス」日伊文化研究19

出隆「己れ自らを知れ」丁酉倫理會倫理講演集504

田中晃「プラトン徳論の主流」哲學年報(九州帝國大學哲學會)4

呉茂一「ギリシヤ人の武士道」新潮8月號

井上哲次郎「道と法とロゴス」(下)道424

井上哲次郎「東西洋哲學の比較研究(1)」道425

石津照璽「實存哲學に於ける時間性的の問題」(プラトン、アリストテレス、キ
ェルケゴールの関係)宗教研究6-1, 2

④書評・三浦一郎「青木巖譯「プラトンの手紙」」史學雜誌658

小林榮三郎「ドイツ晩期中世と人文主義」史淵30・31(合)

理想155中——

金子武蔵「論理と倫理」

串田孫一「加答兒的特性」(モンテーニュ)

理想156中——

川田熊太郎「思想形態論考察」

關戸嘉光「近代の運命とパスカル」

池上謙三「哲學的精神の覺醒」理想158

E.ヤーン(邦文)「ニイチェ及びローゼンベルクに於ける希臘精神と基督教」
〔文學と政治・新しい獨逸の立場〕中)

井上智勇「アグスチンの歴史觀」(京都帝國大學文學部西洋史研究室編「西洋史
説苑2」中)

書評・藤井義夫「山内得立・多賀瑞心兩氏譯「アリストテレス・トピカ（辯證論）」京都帝國大學新聞6（9/1）

中山治一「ヨーロッパ精神史から見たドイツの思惟」日獨文化4-1

シンチンゲル「ドイツの人間の本質と運命」日獨文化4-1

高田武四郎「中世ドイツに於けるギリシア思想——アルベツス・マグヌスとアリストテレス」日獨文化4-2・3（合）

三谷隆正「岩元禎著「哲學概論」序」

C. ①青木巖譯『プルタルコス對比列傳・第七卷』

田中秀央・山岡亮一譯『Xenophon：家政論』

田中秀央・吉田一次譯『クセノポーン：騎兵隊長、馬術』

②大類伸監修『羅馬帝國沒落史觀』中——

井上智勇「古代末期研究序説」

大類伸「ローマ世界の經濟的沒落」

今村文英「ローマの國民精神と經濟」

大類伸「古代ローマ沒落史觀の概要——ロストヴツェフの論著を中心として」

祇園寺信彦「M.Weber「古代文化沒落の社會的原因」」

齋藤二郎「ローマの經濟的破局」

金倉英一「Rehm「ルネッサンスに於けるローマ沒落史觀」

祇園寺信彦「Eduard Meyerの古代文化沒落觀」

酒井三郎「第十八世紀に於けるローマ沒落觀」

照井豊「羅馬帝國の沒落と軍隊との關係」

藤本節夫「G.Ferro「古代文明の沒落」」

森脇貞二「W.E.Heitland「ローマ都市と帝國の衰亡」」

小野寺通典「古代文化の衰亡」

照井豊「ローマと土地疲弊」

照井豊「C.E.Sickle「軍人皇帝時代ローマに於ける自郷心」」

宮崎信彦「W.E.Heitland「羅馬の運命」」

森脇貞二「M.P.Nilsson「ローマ帝國に於ける人口問題」」

大類伸『概論歴史學』

原隨園『ギリシヤ史研究』（第3）

P.V.マイルス著／中村經一譯『ギリシヤ史』

P.V.マイルス著／中村經一譯『ローマ史』

外山卯三郎『ローマ古戰論ゴール戦争の研究』

塚原富衛『ローマ・カルタゴ百年戦争史』

- モムゼン著／河野秋平譯『ハンニバル戦史』
 吹田順助『動態の世界観』（「タキトゥスの見たるゲルマン人」）
 酒井三郎『國家の興亡と歴史家』
 煙山專太郎『世界大勢史』
 岡成志『小國民世界史談』
 ロストウツェフ著／坪井良平・榎本龜次郎譯『古代の南露西亞』
 W.シュミット著／大野俊一譯『民族學の歴史と方法』
 藤波剛一『東西沐浴史話』（「希臘の浴ぶり」「羅馬の沐浴」「羅馬のカラカラ浴堂」）
 エドゥアルト・マイヤー著／佐々木俊次譯『人類學概論』
 フレイザー著／永橋良介譯『金枝篇』（中）
 ヴォルテール著／松山厚三譯『歴史哲學』
 ドーソン著／野口啓祐譯『ヨーロッパの形成』
 小林元『世界史新講』（第3講「西洋の生成」）
 田村實『ヘーゲルの歴史哲學』
 鈴木俊編『世界史年表』
- ③片岡鐵兵「讀書餘録デモステネスの演説」文學報國36
 角田文衛「現代伊太利考古學の諸問題」日伊文化研究16, 17
 村川堅固「ポエニ戰役史談」日伊文化研究19
 鈴木成高「世界史觀の歴史」弘文堂版・世界史講座（1）「世界史の理論」中
 中井良太郎「興亡の戰史を省みよ」マニラ新聞10/10, 11
- ④大島康正「時代區分の主體的根據」理想156
 書評「村上孝至譯「ギボン自傳我が生涯と著作の思ひ出」」史學雜誌653
 書評「酒井三郎「國家の興亡と歴史家」」史學雜誌654
 北村忠夫「昭和十八年度の本邦西洋史學」史學雜誌656
 書評「京都帝國大學西洋史研究會編「西洋史說苑」」史學雜誌660
 村川堅太郎「プルートコス／青木巖譯「對比列傳・第7卷」」日本讀書新聞299
 書評・十河祐貞「西洋史研究・第一輯」史觀31
 紹介「酒井三郎「國家の興亡と歴史家」」史林29-1
 紹介「西洋史研究會編「西洋史研究・第一輯」」史林29-3
 紹介「京都帝國大學西洋史研究會編「西洋史說苑——昭和十七年度」」史林29-4
 書評・上原專祿「ギーゼケ・ワルテル：古代貨幣制」（「獨逸近代歴史學研究」中）
 栗原古城「世界文化の地理的考察（J.フェアグリーヴ著）」日本讀書協會會報281
- D. ①吳茂一譯「イリアス・第一書」四季81
 小川政恭譯「ホメロス・イリアス第1歌（散文譯）」狼煙15

- 岩崎良三譯「ローマ古詩三篇」(ホラーティウス「アーケティウムの海戦後及女王クレオパトラの死せるをききて」／ホラーティウス「ローマに榮光あらしめよ」／ウェルギリウス「プリュギア人に向かひてヌーマヌスの誇らかに歌へる」) 新潮3月號
- ②ボザンケト著／井上政次・鍋島能弘譯『美學通史』
 ヴァンルーン著／玉城肇譯『藝術の歴史』(第2卷)
 徳川義寛『獨逸の美術史家』(ブルクハルト、ヴェルフリン)
 バッキングトン&レサビイ著／眞野善一譯『西洋建築史入門』
 中村順平『建築學・總説篇』
 村田潔『ギリシアの神殿』
 新關良三『希臘羅馬演劇史』(第2卷)
 竹友藻風『詩學と修辭學』(アリストテレス、ローマ詩學中心)
 井島勉『藝術史の哲學』
 本間久雄『改稿・文學概論』
 泉井久之助『言語學論攷』
 輿水實『言語哲學總説』(第2章2「觀念論の言語哲學」)
 石田憲次『近代英國の諸斷面』(「文學上から觀た「死」の問題」)
 岡野他家夫『明治文學研究文獻總覽』
- ③田中美知太郎「ギリシア演劇の公共性」日本演劇2-2
 (参考：西洋史讀書會、史林29-1
 村田數之亮「ギリシア「アルカイック」」)
 村田潔編『ギリシヤ藝術試論』中――
 加藤成之「ギリシヤの樂器」
 森田慶一「古典建築に於けるシュムメトリア」
 村田潔「プラトンと藝術」
 小宮豊隆「アリストファネスの鳥」
 呉茂一「ギリシヤの戰記物」新潮8月號
- ④紹介・村田數之亮「村田潔「ギリシヤの神殿」」史林29-3
 紹介・大和資雄「西歐文學入門・中川芳太郎「歐羅巴文學を併せ觀たる英文學史」」英文學研究24-1
 相良守峯「文學に現はれたるドイツ的性格」日獨文化4-1
 エタ・ハリッヒ・シュナイダー「ゲーテとドイツ國民音樂」日獨文化4-1
 吹田順助「ヘルデルリーンと現代――ヘルデルリーン百年祭に因みて」日獨文化4-2・3(合)
- E. ①天谷一雄譯「プラトン・理想國論 (G.Engelmann, Meisterwerke der Staatphilosophie,

1923中のPlaton, Der Staatの邦譯) 法律時報16-3

②Adolf Menzel著／川又昇譯補『メンツェル社會學概論』

L.ブレンターノ著／船越康壽譯『歐羅巴古代經濟史概説』(西洋經濟史名著選集)

ザリーン著／高島善哉譯『經濟學史の基礎理論』(「前史——アテネ、ローマ」)

船田享二『羅馬法』(第4「私法Ⅲ」・5「附録」)

船田享二『法律思想史』(再版)

石田憲次『近代英國の諸斷面』(「アーノルドの國家觀」)

③原田慶吉「ヂオクレチアヌス帝の最高物價並に賃金報酬統制令の研究(一)」

國家學會雜誌58-8

船田享二「羅馬慣習法理論考」法律時報16-3

柳澤義男「古代ギリシヤ法の法源」法學新報54-4

ヂオルヂオ・ヴェキオ／和田小次郎譯「正義(プラトン、アリストテレス、ピ
タゴラス)」(ピンダー&ラッソン&リ
ュメリン&ヴェキオ／和田小次郎譯
「國家と法と正義」中)

中島健一「ローマン・ガリアの經濟的發展とその變質」歷史學研究14-1

高橋誠一郎「經濟活動動機思想史概觀」三田學會雜誌38-2

高橋誠一郎「地代思想史概觀」三田學會雜誌38-5, 6

中島慎一「自然法の歷史的意義について」(ストア、キケロ、ローマ法) 哲學
年報(九州帝國大學哲學研究會) 4

④紹介・原田慶吉「船田享二「羅馬私法提要」／同譯「ガイウス法學提要」／同
「法律思想史」國家學會雜誌58-5

紹介・尾高朝雄「船田享二「法律思想史」」法學會論集14-4

内田力藏「サー・ヘンリー・メインイギリス歷史法學の傳統と特色」法律時報
16-1, 3, 6, 7, 9, 11

牧野英一「急如律令錄(99)(100)(101)(102)(103)(104)(105)(106)
(107)(108)」(ローマ法、イエーリング等) 法律時報16-3, 4, 5, 6, 7,
8, 9, 10, 11, 12

新刊「天谷一雄譯「プラトン・理想國論」法律時報16-3

新刊「船田享二「羅馬法・第三卷」」法律時報16-4

文獻展望・市川秀雄「船田享二「羅馬法・第二卷」」法學新報54-1

書評・秀村欣二「ルヨ・ブレンターノ／船越康壽譯「歐羅巴古代經濟史概説」
社會經濟史學14-7

新著摘録「ブレンターノ／船越康壽譯「歐羅巴古代經濟史概説」經濟史研究31-

7・8(合)

- 書評・吾妻光俊「船田享二「法律思想史」一橋論叢13-1
- F. ②ウォルター・シェフィールド著／赤木俊譯『自然科学史講話』（上）
 桑木或雄『科學史考』？
 A.G.ベンジャミン著／篠原雄譯『科學哲學序説』
 オットー・ヨハンゼン著／市川勝弘・鈴木章譯『一般人の鐵の歴史』
 ベロウ著／堀米庸三譯『獨逸中世農業史』（史學叢書、1「基礎太古代」）
 アーレニウス著／寺田寅彦譯『史的に見たる科學的宇宙觀の變遷』（岩波文庫）
 山本一清『星座の話』（借成社少年少女文庫の内）
 今野武雄『數學史』
 小倉金之助『戦時下の數學』（「物理學と數學」中「ギリシヤ時代の數學」）
 彌永昌吉『現代數學の基礎概念』（上）
- ④書評・田中美知太郎「ディールス「古代技術」」科學16-3
 新刊・末綱怨一「數學と數學史」（下村寅太郎）科學14-5
- G. 新明正道編『社會學辭典』
 齋藤靜『双解英和辭典』（富山房）
- 昭20（1945）
- A.ヴァン・ルーン著／内山賢次譯『人類解放物語』（上）
 茂手木元藏「東洋の思考とギリシアの思考」在滿教育研究2-3
 （参考：昭和二十年秋學期東京帝國大學文學部史學關係講義題目、史學雜誌
 664
 史學概論（今井）西洋史概説（山中）西洋史學演習（山中）羅馬共和
 政期史（村川）アテナイ哲學（出）人倫ノ世界史的考察（和辻）美術
 史研究法（兒島）美術史演習（兒島）獨乙演劇史（新關）等）
 （参考：昭和二十一年秋學期東京帝國大學文學部史學關係講義題目、史學雜誌
 671
 史學概論（今井）蘭學史の基礎的研究（板澤）西洋史概説（村川）教
 育學概論（上村）教育史（海後）西洋倫理思想史（金子）美術史學概
 論及西洋美術史特殊講義（兒島）西洋音樂史（遠藤）等）
- B. ②R.W.エマソン著／柳田泉譯『プレトオ即ち哲人』（「代表偉人論」4卷中第2）
 ③出隆「ソクラテスの毒杯とイエスの十字架」基督教文化1-10
 （参考：西洋史讀書會、史林30-1
 村田講師「希臘初期自然學とボリス的秩序」）
 山内得立「西洋哲學——太初に參徹するもの」帝國大學新聞19（2/1）
- ④理想159中——
 武市健人「哲學に於ける主體性と科學性」

山崎正一「認識論の系譜」

有賀鐵太郎「海老名彈正と希臘神學——歴史神學的思維の一研究」基督教研究

21-4

書評「松村武雄「古代希臘に於ける宗教的葛藤」」史學雜誌664

藤井義夫「田中晃「プラトンとアリストテレス」」日本讀書新聞324

批評紹介「西域史研究（上）（下）」（白鳥庫吉著）東洋史研究（新）1-3

C. ②J.B.Bury著／村田泰志譯『ギリシア史』（下）

千代田謙『啓蒙史學の研究・第一部』

③原隨園「ギリシアに於ける歴史學の展開」史林30-3

原隨園「ソクユディダスの古代史に就いて」史林30-5

④紹介「原隨園「ギリシア史研究・第三」」史林30-2

紹介・梅原末治「ロストウツェフ／坪井良平・榎本龜次郎譯「古代の南露西亞」

史林30-3

新著摘録「上原專祿「獨逸近代歴史學研究」」（ドブシュ等）經濟史研究32-1

D. ②呉茂一『ざりしあの小説』（日本叢書）

新關良三『希臘羅馬演劇史』（第3「ソボクレス」）

大橋孝吉編『古代希臘美術』（上中下）

③ヘルダー／中野康存譯「オシアーン及び古代諸民族の歌謡に關する往復書簡からの拔萃」「古代及び近代諸民族の風俗に及ぼせる詩の作用について」（「民族詩論」中）

田中美知太郎「喜劇」新潮1月號

田近憲三「悲壯美に關する彫刻二題」美術2-3

柴田治三郎「ギューゲスとその指輪」文化39-1, 3

④ヘルダー／中野康存譯「ヴァインケルマン記念碑」（「民族詩論」中）

E. ③（参考：西洋史讀書會、史林30-2

井上智勇「ローマの政治と經濟」

（参考：西洋史讀書會、史林30-4

原隨園「アリストテレスの理想國」

井上智勇「ローマ的自由の觀念」

④牧野英一「急如律令錄（109）（110）」法律時報17-1, 2

「經濟史年鑑」經濟史研究32-1

——第一章「史學及經濟史概論」／第四章「西洋經濟史」

【不明】

昭？B. ②小川義章『プラトンの哲學』（近刊の廣告があるが、出版不明）

昭？B. ③三木清「辯證法の理論と歴史」大阪朝日新聞？/?（1968年刊三木清全集

第19巻に収録)

昭? C. ②東京盲學校鍼按科編『新訂・西洋史』

昭? D. ②相良徳三『歐洲美術の歴史——エジプトから現代まで』

昭? D. ②三木露風『微光』(未刊詩集、「古代情緒」)

昭? E. ②G.Mackenzie著／伊藤悌治・石川錦一郎譯『(羅英仏蘇) 各國比較法理論』

昭? F. ②小高吉三郎『オリムピックの話』

【補遺】

昭21 (1946) A. E.テイラー／林竹二譯『ソクラテス』(櫻井書店、昭20年に製本
6000部完了。刊行直前に空
襲で焼失。本年再刊。)

昭21 (1946) 川田熊太郎『ギリシア哲學研究』中——

「プラトンの思想と生活」同人館編「大哲學者」中(昭17)

「プラトンの原因論」哲學雜誌(昭12)

「プラトン哲學の諸問題」哲學雜誌(昭13)

「プラトンの測定學」哲學雜誌(昭16)

「ギリシア哲學の精神」世界精神史講座4(昭15)

「ギリシア哲學の原理論と倫理學」文部省教學局編「日本諸學研究報
告」19 篇中

昭21 (1946) 原隨園『渉史漫筆』中——

「ギリシヤ人と饗宴」

昭22 (1947) 出隆『ソクラテスの道』中——

「ソクラテスと愛國心」新人26-4

「哲學者の貧困」哲學評論1-1

「ソクラテスの思索」季刊・思索3

「ソクラテスの毒杯とイエスの十字架」基督教文化10

「プラトンの理想の國」婦人と政治1-10/2-1

「ピロン翁のスケプシス」哲學1-1

「アタラクシアと禪」八雲2

「古代唯物論者の「心」について」理論2

昭22 (1947) 長澤信壽『哲學論集・古典と反省』中——

「古典の意義」(昭?、京都放送局の放送原稿に加筆)

「プラトーンの對話篇」(同上)

「文學の本質と言語の媒介性」(発表誌不明)

「プラトーン哲學と科學性の問題」

「ルクレーティウス・カールス」

「ルネサンス」

- 昭22 (1947) 吳茂一『ギリシア・ローマ文學襍攷』中——
「ホメーロスの世界」(再編。発表誌不明)
「ギリシアにおける詩學」(新潮社版「世界文學講座」中)
「ウェルギリウス」(同上)
「ギリシアの小説」(新日本叢書(生活社)中)
「アリストファネス作・喜劇「雲」について」(「哲學」1)
「ローマ思想」(理想社版「精神史」講座中)
- 昭22 (1947) 豊川昇『哲學者覺書』中——
「セネカの生活」(昭6)
「西洋哲學の渡來」(昭19)
- 昭22 (1947) 井上智勇『ローマ經濟史研究』中——
「ラティフンディアの成立と經營」
「コロナトゥスの本質と成立」
「ローマ商工業の發展と構造」
- 昭22 (1947) 小宮豊隆『悲劇と喜劇』中——
「希臘喜劇の起源に就いて」
「喜劇と喜劇的精神史」
- 昭24 (1949) 安倍能成『安倍能成選集2』中——
「古のアクラガスを訪ふ」
「ペロポネソス半島の一角」
「ウブサラの一夜」
- 昭24 (1949) 安倍能成『安倍能成選集3』中——
「人間としてのケーベル先生」(大12.7.8.夜)
- 昭24 (1949) 安倍能成『安倍能成選集4』中——
「西洋思想と教養」
- 昭36 (1961) 村岡典嗣『日本思想史概説』(日本思想史研究第四)中——
第1部1編1章「Philologieの意義および本質」(大13-昭2までの東北
帝大における講義ノート)